

エヌ・デーソフトウェア株式会社

佐藤 華瑠香

＜フィールドホッケー＞

昨年度につきまして、引き続き活動をご支援いただきありがとうございました。

昨年は私にとって公私ともに新たなスタートを踏み出す1年となりました。

仕事においてもホッケー競技においても、子を出産・育児休暇明けの復帰の年となり大きな不安もありましたが、それでも両立ができたのは支援いただいた山形県企業スポーツ振興協議会、職場の方々、家族の協力があったからこそだと実感しております。

悲願の全国大会にも出場することができ、滋賀の地で思い切りプレーをすることができました。結果としては、開催地の地元チーム滋賀クラブに対し0-1で惜敗しましたが、滋賀クラブは3位となる成績を残しております。プレーする楽しさ、嬉しさを大変に実感できる大会であったとともに、私たちは全国のチーム相手にも引けをとらず十分戦えるのだと、若い選手たちに目標を持たせることもできた非常に有意義な大会だったと感じております。

今年度も練習に励み、今度は国民スポーツ大会の全国の地へ立てるよう精進してまいります。引き続き応援の程 宜しくお願い致します。



エヌ・デーソフトウェア株式会社
NDソフト
アスリートクラブ
＜陸上競技・駅伝＞

令和6年度、2年連続のニューイヤー駅伝出場権獲得を目指して出場した東日本実業団駅伝では14位となり、ニューイヤー駅伝の出場は叶いませんでした。

個人競技では、5月に行われたナッソー世界リレー4×100mRに青野朱李が日本代表として出場、9月の全日本実業団対抗陸上競技選手権大会では100m・200mの2冠を達成し国内外問わず結果を残しました。また、全国障害者スポーツ大会では昨年に引き続き戸田夏輝が800m・1500m（大会新記録）で2冠を達成。さらに荒生実慧が2月の青梅マラソン30kmで優勝、3月の東京マラソンで2時間08分05秒の山形県記録を樹立するなど、山形県長距離界の追い風になる走りを魅せました。

CSR活動では、南陽市のほか上山市や川西町、高畠町など各地で陸上競技の講師として陸上教室に参加し、小中学生・一般・社会人向けに指導を行いました。

今年度は東日本実業団駅伝のニューイヤー駅伝出場権獲得、ニューイヤー駅伝チーム最高順位の更新、個々の目標に向けて、より一層練習に励んでいきます。

近年のランニングシューズの進化によって、マラソンは今や見るスポーツではなく参加するスポーツとなりました。私たちの活動を通して、山形県の皆様が陸上競技に関心を持ち、少しでも多くの方が体を動かすきっかけとなれるように、引き続き普及活動に力を入れていく所存です。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



株式会社置環 スキー部

令和6年度の目標も引き続き「国スポ優勝・入賞」を掲げ活動をしてきました。

選手構成は男子のみで、アルペン2名（佐藤慎太郎、三上大我）で取り組みました。

あきた鹿角国スポ2025では、ジャイアントスラローム成年男子Bで佐藤慎太郎が4位という結果で惜しくも表彰台を逃しましたが、入賞という目標を達成することができました。

同じくジャイアントスラローム成年男子Bに出場した三上大我は15位という結果で、目標を達成することはできませんでした。しかし15位に入ったことで、山形県の国スポの第一シード枠を2枠獲得したことにより、来年のレースに期待が持てます。

佐藤慎太郎は昨シーズンのアジアを中心としたファーストカップの大回転でのランキングで1位の結果を残し、ワールドカップの出場権を獲得しました。今シーズンはかみ合わなくて、苦戦をしています。

また、三上大我はFIS阿寒スラロームで優勝しました。

以前、選手として活躍していた清野嵩悠は令和6年度も全日本のアルペンコーチとしてヨーロッパを主体としたワールドカップ、世界ジュニア選手権に派遣され、コーチとして活動しております。

令和7年度も目標を達することができるように努力し、怪我をせず1年間活動できる強い選手を目指し、弊社で経営しておりますココロとカラダをリカバリーする蔵王防平「高源ゆ」を拠点にトレーニングに励みます。

また、地域貢献の一環として地元高校スキー部のアルペン競技の指導を継続して行っております。卒業したOGは大学に行っても国内主要大会で優勝、上位入賞し、国内トップレベルで活躍しています。

最後になりますが、当協議会の皆さまからの温かいご声援とご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。



株式会社きらやか銀行

高橋宗成選手

<ラグビー>

2024年度山形県成年男子ラグビーフットボールチームは「SAGA2024国スポ出場」を目標に掲げ活動を行って参りました。

今年度、メンバー構成を昨年度から大幅に変更、チームの若返りを図りました。大学生をはじめ、ほとんどのメンバーが20代前半で、チームとしてもまだまだ経験値が低い状態でしたが、東北総体では強豪の秋田県、青森県にも臆さず果敢にプレーをし、福島県から勝利することができました。最終的に5位という結果に終わりましたが、随所にキレのある良いアタック、堅いディフェンスも垣間見え、新生山形県成年男子ラグビーフットボールチーム初年度として良いスタートが切れたと感じております。

2025年度については、春から県外遠征や県内での合同トレーニング等を積極的に実施し、今年こそは滋賀県で開催される国民スポーツ大会の出場権を奪取したいと考えております。今後とも山形県成年男子ラグビーフットボールチームへの応援を宜しくお願いいたします。



株式会社きらやか銀行

B-net/yamagata

＜硬式野球部＞

B-net/yamagataは2023年1月に山形市の社会人野球クラブチームとして設立しました。

二年目を迎えた2024年シーズンは14名の選手が新しく加入し、「社会人になっても山形で硬式野球を続けたい」という仲間が増えました。新加入選手の中には現役の医師も2名おり、多彩なメンバー構成となっています。

2024年は昨年に続き都市対抗野球山形県予選で優勝し、続く東北二次予選では企業チームであるトヨタ自動車東日本から勝利を掴み取りました。企業チームからの勝利はチーム目標の一つでもあり、二年目にして達成することが出来ました。

続く全日本クラブ選手権は山形県予選で初優勝し、東北予選に出場しました。東北予選は地元山形での開催であり、全国出場を目指しましたが、結果は第三代表決定戦で敗退し、目標とする全国大会へ出場することができませんでした。来年こそ全国大会へ出場するためにオフシーズンから練習を重ね、更にレベルアップを図り、2025年の大会に挑みます。

オフシーズンには地域活性化を図るべくCSR（地域貢献活動）を精力的に行い、今年度は山形市のスポーツ課と連携した地域貢献活動を行いました。地域密着のチームとして一翼を担えるよう引き続き取り組んでまいります。

山形という地域の皆さまから支えて頂き活動するB-net/yamagataは来年度更に野球で山形を盛り上げ恩返しできるよう邁進いたします。

ぜひ引き続き応援をどうぞよろしくお願いいたします。



社会医療法人公徳会

佐藤病院軟式野球部

日頃より公徳会佐藤病院野球部へのご支援、ご指導をいただき、心より感謝申し上げます。

6月に行われた県内大会での敗戦からチーム全体が危機感を持ち、練習への取り組み方や姿勢を見直し、1年を通して緊張感のあるシーズンとなりました。6月の敗戦後は、負けられない状況の中、チーム全員で県大会を勝ち上がり、東北総合スポーツ大会での0-7からの大逆転。そして、佐賀県にて開催された国民スポーツ大会での4位入賞と、敗北と勝利の両方を経験しました。この結果に満足することなく、敗退した悔しさを忘れず、新たなシーズンも更に飛躍できるよう前進して参ります。

最後となりますが、近年、野球人口の減少が問題視されています。公徳会佐藤病院野球部は、山形県の企業チームとして、少しでも多くの勝利と野球の楽しさを地域の子供たちへ伝えられるよう地域貢献活動にも積極的に取り組んで参ります。

今後も公徳会佐藤病院野球部へのご支援とご声援宜しく願いいたします。



斎藤農機製作所 剣道部

令和6年度、剣道部の活動報告ですが、5月酒田市体育大会参加、6月国民スポーツ大会剣道県予選会、7月山形県剣道大会、9月全日本実業団大会がありました。特に地道に基本や稽古を続けていたおかげで、個人では久々に入賞した選手がいました。また山形県剣道大会では数年ぶりに入賞することが出来ました。今までの基本稽古、基礎トレーニングの成果が出て予想以上の力を発揮することが出来ました。

さらに自らの稽古だけではなく当剣道部は各地域の小中生の指導にも積極的に参加し地域の剣道普及活動も行っています。

今後も各種の大会での上位を目指すとともに普及活動も継続して行きたいと思います。



渋谷建設株式会社

山形クベーラ

<バスケットボール>

今年度もレベルアップ支援事業補助金を交付していただき大変光栄に思います。

今年も山形クベーラとして社会人バスケットボールに取り組ませていただきました。

今年度は東北地域リーグから全国トップリーグに舞台を移し、8チーム中4位という成績を収め全国チャンピオンシップ大会に挑みました。

長いシーズンの中で怪我人が続出し、なかなか結果が結びつかず苦しいリーグ前半戦でしたが、後半戦から徐々にチーム状況が改善され一時最下位争いをしていましたが何とか4位まで順位をあげリーグ戦を終えました。迎えた全国チャンピオンシップ大会では5位と過去の成績に並び、あと一歩でファイナル4を目前に敗退してしまいました。

悔しさもありますが昨年度に比べると達成感もありました。来年度はさらなる飛躍を遂げるように頑張りたいと思います。

たくさんのご支援やご声援があることを忘れずに皆様のご期待に沿えるようトップリーグも山形国体成年男子も山形県のバスケットボールのために、子供たちのいい見本となれるよう引き続き精進していきます。



株式会社でん六

男子バドミントン部

令和6年度活動報告、4月に行われました、第41回東北実業団選手権大会（福島市）今大会四年連続第三位、1回の準優勝と実績を残している大会となります。

準決勝まで順調に勝ち進み、四年連続対北都銀行戦、ダブルス2試合共良い形で快勝し、シングルス3試合中1試合でも勝てば決勝進出となる状況、気が緩んだ訳ではないですが、3試合共負けてしまい結果2-3となり3位決定戦へ、何とか気持ちを、切り替え3位を死守することができました。今後はもっとシングルの再強化が必要だと再認識させられた大会となりました。

6月に行われた第74回全日本実業団選手権大会（仙台市）参加171チームと過去最高の出場数を更新、2000人以上が集まる社会人大会では国内最大級の大会となります。

近年毎年参加チーム数が更新され国内バドミントン人口が増加してきている事が肌で感じられ競争が激化してくると危惧しているところです。

今大会去年は予選ブロック1位通過、決勝トーナメント進出、決勝トーナメント1回戦を勝ち4回目のベスト32入りを果たしました。今年度5回目のベスト32を目指し臨みましたが、予選ブロックで新規チームの宮脇銅管（大阪）に接戦の末敗戦、結果予選2位となり決勝トーナメントに進めませんでした。上記にも記載したように年々バドミントン人気が高まり新規に戦力を補強してくる企業やクラブチームが増えてきており、競争力が上がっていることを感じてきています。

また2月に行われた、S/Jリーグ3（立川市）では今年度も昨年同様昇格枠は優勝チームのみと厳しい戦いに臨む事となり、その中予選ブロック1位通過、昇格決定戦へ、決定戦1回戦対アーガスB.M.C（愛媛）にダブルス、シングルス共にファイナルセットまで纏れる接戦を展開、終盤ダブルス、シングル共に押し切られる形となり敗戦、結果32チーム中第5位と昇格を果たす事が出来ませんでした。今年度は接戦を落とす試合が目立った年となり、メンタル強化も必要だと感じた年となりました。

最後に山形県企業スポーツ振興協議会の皆様をはじめ多くの関係者から温かいご声援、ご支援を頂きまして深く感謝申し上げますと共に今後とも引き続きご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



株式会社プレステージ・インターナショナル

アランマーレ山形

<バレーボール>

チームは創部10年目を迎えました。2024年10月より、世界最高峰のリーグを目指す「SV.LEAGUE」がスタートいたしました。

アランマーレ山形は、経営基盤、チーム強化、地域貢献、ホームタウン、アリーナ基準などの基準を満たしライセンスが交付され、SV.LEAGUE参戦となりました。

2023-24シーズンは、初のトップリーグ（V1リーグ）に参戦するも全敗の最下位という結果を踏まえ、14チームでスタートした「2024-25大同生命SV.LEAGUE WOMEN」は、チームの持ち味である粘り強い守備からボールを繋いでからの攻撃を戦術のベースとし、新たに外国人選手2名の戦力を補強し挑みました。

試合数がこれまでの倍となる44試合（内ホームゲーム22試合）となり、コンディション・メンタル面でも厳しいシーズンをチーム力とどのチームにもない戦術、戦略で2月のホームゲームで初勝利を含む5勝を挙げることができました。

2025-26シーズンのライセンスも取得(2025/3承認)。2024-25シーズンの経験を生かし、既存選手と新加入選手の育成、また外国人選手を含めた選手補強、チームスタッフによる選手サポート体制の強化などを整備し、更なる高みを目指してまいります。

アランマーレ山形は、試合で「感動」をお届けするだけでなく、チーム・地域・パートナーを笑顔でつなぐ存在になれるように目指してまいります。引き続きご支援ご声援をお願い申し上げます。



株式会社山形銀行

五十嵐紫乃選手

＜アルペンスキー＞

令和6年度は、国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会において第10位という成績を収めることができました。入賞までコンマわずかの差で悔しい気持ちもありますが、来年度に繋がる結果を残すことができました。2月の本大会と1月の山形市蔵王温泉で行われた県予選では、多くの上司・先輩方が応援に駆け付けてくださり、改めて多くの方からご支援をいただいていることを実感しました。

これまで頂いた恩恵に対する感謝の気持ちを忘れずに、一社会人として、YAMAGATAドリームキッズ卒業生として、銀行業務だけでなく、スキーへの取り組みや事業協力・支援等を通して、山形県のスキー・スポーツの発展に貢献できるよう精進してまいります。



株式会社山形銀行

ライヤーズ

<バスケットボール>

令和6年度は、『Our Team ～勝つために～』をスローガンに掲げ、全国大会優勝に向け日々の練習に取り組んできました。東北総合スポーツ大会では東北1枠の国民スポーツ大会の出場権を獲得し、その国民スポーツ大会では、3位入賞を果たしました。さらに、日本社会人バスケットボールリーグ（SB1）では3位、全日本社会人バスケットボールプレミアムチャンピオンシップでは準優勝し、目標の全国大会優勝は叶いませんでしたが、年間を通して練習の成果を発揮し、各大会で結果を残すことができました。

今シーズンは、4名の新人選手を迎え、合計13名での活動となります。山形県企業スポーツの発展に貢献できるよう、より一層チーム力の強化を図り、国民スポーツ大会とチャンピオンシップの2冠を目指し、努力してまいります。

多くの方々に支えられ、日頃練習や活動ができていることに感謝し、今シーズンも結果や地域貢献で恩返しができるよう精進いたします。

